

演題番号：P-089

演題名：保険薬局における腎排泄型薬剤適正使用推進のための教育プログラムの作成と評価

発表者：○近藤 悠希¹ [熊本県]、井上 彰夫^{1,2}、近藤 智³、石塚 洋一¹

所属：¹熊本大学大学院生命科学研究部 臨床薬理学分野、
²公益社団法人鹿児島県薬剤師会 薬事情報センター、
³鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 トランスレーショナルリサーチ部門

抄録：

【目的】

保険薬局では腎機能に応じた適切な減量が必要な薬剤が多く調剤されているにも関わらず、薬局薬剤師による腎機能を考慮した処方監査・疑義照会等が十分ではないことが報告されている。その背景として、薬局薬剤師の知識や意識がボトルネックとなっていることが示唆されてきた。そこで、本研究では薬局薬剤師に対する教育的介入により、薬局薬剤師の意識や知識が向上すること、それに伴い疑義照会等の実施につながることを想定し、教育プログラムの作成ならびに効果の評価を行った。

【方法】

鹿児島県内 14 薬局を対象とし、2022 年 6 月 6 日から 12 月 25 日を観察期間とし、参加薬局から期間中に応需した処方内容と、腎機能に関する疑義照会・トレーシングレポート等の処方提案の事例を収集した。教育的介入は、9 月 12 日から 9 月 18 日の間におけるオンラインを用いた講習会受講により実施した。主要評価項目は、分割時系列解析を用いて算出した教育的介入前後の腎機能低下時に注意が必要な薬剤が処方された際の薬剤師による処方提案割合の変化とした。併せて処方提案に対する医師からの採択率の変化、さらに選択式設問（全 10 問）による教育的介入の前後における薬剤師の知識レベルの変化を副次評価項目とした。本研究は、熊本大学大学院生命科学研究部研究倫理委員会の承認（倫理第 2489 号）を受けた。また、本研究は日本薬剤師会薬剤師職能振興研究助成事業より助成を受けた。

【結果】

観察期間中 64 件の処方提案事例が報告され、分割時系列解析の結果、slope change (95%CI)：-0.09 (-1.09-0.91) となり教育的介入前後で処方提案率の有意な変化は確認されなかった。処方提案事例のうち 39 件 (60.9%) で処方変更が行われ、教育的介入前後の医師からの採択率はそれぞれ 58.5%、65.2%であったが統計学的な有意差はなかった。参加薬局所属の薬剤師 43 名の教育的介入前後の知識レベルの変化は、正答数の中央値（第一四分位数-第三四分位数）が受講前の 7 問 (5-9) から受講後の 9 問 (7-10) と有意に増加していた。

【考察】

薬局薬剤師が腎機能を考慮した疑義照会等を実施するための知識を習得することに関して、本教育プログラムの有用性が示唆された。一方、教育的介入による処方提案率の変化は確認されず、教育的介入の効果はさらなる検証が必要であると考えられた。

【キーワード】

腎機能 教育プログラム 保険薬局 分割時系列解析